

Nihon Hospital Volunteer Association

## 病院ボランティアだより

No.254 2022.10

特定非営利活動法人  
日本病院ボランティア協会〒542-0012 大阪市中央区谷町 6 丁目 4-16 商店街ビル202  
TEL & Fax 06-6809-6506  
http://www.nhva.com/E-mail nhva@cronos.ocn.ne.jp

## “With/Postコロナ時代”を見据えた新たな病院ボランティア活動

総合病院日本バプテスト病院 理事長・院長 尼川 龍一



当院は、京都市左京区北白川の美しい緑に囲まれた閑静な場所に立地しています。近くには銀閣寺と大文字山があります。当院は、米国南部バプテスト諸教会の献金によって作られた日本バプテスト連盟医療団により、1955年に設立されました。そして、イエス・キリストの隣人愛に基づく「全人医療」の理念のもとに医療活動に専念し、2022年に創立67周年を迎えました。

当院のボランティア活動の始まりは1960年代に遡ります。当時は、教会の婦人会の方々には洗濯物たたみやガーゼ折り、看護学生のユニフォームやエプロンの縫製をしていただいております。その後、ボランティア活動は教会の奉仕活動の枠を超え、一般の方々にも参加していただく社会奉仕活動となりました。1983年には、院内ボランティア活動の組織化を目的に、ボランティア委員会を結成しました。現在は、ホスピスを中心に約70名のボランティアが、傾聴、ティーサービス、音楽演奏、アロマセラピー、ドッグセラピー、生け花などの活動をしています。

当院は、コロナ禍の初期から発熱外来とコロナ専用病棟を開設し、患者さんを受け入れてきました。これに伴い、2020年2月からボランティア活動は中止となりましたが、ボランティ

アとの繋がりを維持するため、病院の近況報告を掲載した『ボランティア便り』

の定期発行と、ボランティア会議のリモート開催を継続してまいりました。また、ボランティアさんには、イベント作品や育てたお花を病院に届けていただくなど、コロナ禍にあっても変わらぬご支援をいただいております。2021年10月には、『感染状況に応じたボランティア活動指針』を院内感染対策委員会と共同で作成し、患者さんと直接接しない形での院内活動を再開しました。

コロナ禍にあっては、科学的知見やエビデンスに基づいてコロナを“正しく恐れる”ことが肝要であると心得ています。そして、“With/Postコロナ時代”を見据えた新たなボランティア活動を模索している所です。



## ホスピス・緩和ケアボランティア研修会

### 《講演と参加者間の交流》

日 時：2022年7月22日（金）

会 場：大阪府社会福祉会館402号

参加者：60名（会場12名、Zoom48名）

#### 講演

## この瞬間を笑顔に！

### 「横浜こどもホスピス～うみとそらのおうち」 －こどもホスピス設立にける想い－

認定NPO法人  
横浜こどもホスピスプロジェクト 代表理事 田川 尚登氏



認定NPO法人横浜こどもホスピスプロジェクト代表理事の田川尚登と申します。本日は多くの皆様に小児医療の課題や私たちが取り組んでいる活動と昨年11月にオープンしました横浜こどもホスピス～うみとそらのおうちについてお話をさせていただきます。(資料①)

まずは、我が国の小児医療の現状と課題について少しお話をさせていただきます。(資料②, ③)

このグラフは世界の乳児新生児の死亡率を表しています。1,000人生まれてどれだけの新生児が亡くなっているかを数字で表しています。このグラフの通り日本は、世界で一番新生児が一番助かっている国になります。2017年では、1,000人生まれて亡くなっているのは0.9人なのです。それは、新生児特定集中治療室（病院において早産児や低出生体重児、または何らかの疾患のある新生児を集中的に管理・治療する集中治療室）、NICUとも言われていますが、このNICUが全国の病院に配置されているからです。(資料④) お母さんのお腹の中の環境と同じようになっている治療室です。多くの新生児が助かることと助けることとしての問題は起きています。通常サイズのリングですが

約300グラムくらいなのです。(資料⑤) 以前はこの体重の新生児はほとんど命を落としていましたが、今は多くが救える命になっています。ただ助けることで問題が起きています。

このグラフは、未熟児等で生まれても医療的な機器を装着しないと生きることができない子どもたち、医療的ケアに頼らなければ生きていけない子どもたちが増えています。毎年10%～20%増えています。現在わが国には約2万人超おります。(資料⑥)

医療的なケアが必要な子どもたちを抱える困難として、家族の負担が大きいことがあげられます。(資料⑦)

重い医療ケアがあるために5分も目を離せない緊張感、変わりやすい病状いつ具合が悪くなるかわからない状況で介護者は睡眠時間がほとんどない状況が生まれています。また介護する家族への支援の乏しさもあります。医療が必要なゆえに支援が困難で、訪問する医師、看護師が圧倒的に不足しています。

福祉制度の未成熟（3歳以下ヘルパー出せない、送り迎えの支援がない、預ける場所がない、医療機器の自己負担）もあり、ほとんど外



[田川尚登氏 スライド資料] 21~30

21 病气や障害がある子どもと家族への音楽支援事業

・神奈川県内の特別支援学校に通う、重症の身体障害児と家族に生の音楽を音楽ホールで聴かせる  
第12回 地域がぎえるふれあいコンサート開催。  
(公演 横浜ラポールシアター)



22 横浜子どもホスピスの成り立ち

「子どもホスピスをつくりたい」  
ひよりの家療育の理念と実践から始まったプロジェクトは、ご家族、医療関係者、教育関係者、ボランティアそして数多くの賛助者の方で、プロジェクトを進めてきました。



23 世界の子どもホスピスの特性

“Local initiative” - 地域に根差した自発的な活動  
“Home from home” - 病院でなく家である  
“Friendship” - 友として寄り添う  
“Free-standing” - 制度に依拠しない独立した施設、財源を寄付に頼った慈善事業

24 イギリス発祥の子どもホスピス  
病院ではなく家である

- 病院であることも忘れられる場所
- アットホームな雰囲気
- 楽しく遊べる場所 (Play room)
- 読書できる場所 (Living room)
- みんなで食事ができる (Dining room)
- 寝泊まりできる (Bed room)
- 家族や友達が集う場所



25 英国のこどものホスピス



フランドムスター (Flandm House) は (2019年) 運営費を125万ポンド (約1億2500万円) から、NPI (非営利組織) サービス (NHS) から事業を受け取る29万ポンド (約2600万円) の助成金を受け持っている。対象年齢は1歳以上16歳以下で小児がん患者は、20歳代まで利用可。  
(注: 地域別の運営費は必ずしも異なる)

26 ドイツの子どもホスピス18施設



ドイツの子どもホスピス18施設 (注: 地域別の運営費は必ずしも異なる)

27 ささやかな望みをかなえる場

- 友達の家でも呼んでご飯を食べたい。
- お父さんの誕生日をやりたい
- 家族みんなでお風呂に入りたい
- バーベキューがしたい
- 両親と一緒にゲームがしたい
- ホッパに乗りたい
- 勉強を教えてもらいたい
- 家族を愛したい



28 横浜子どもホスピス～うみとそらのおうち  
LTCの子どもと家族の心療社会的孤立の軽減に向けて

子どもと家族が、安心して過ごせる居場所づくり「うみとそらのおうち」

子どもと家族がつながりを感じて生まれる地域ネットワークづくり



29 横浜子どもホスピス理念

この病院を実験に！  
みんなで支えてほしい！

Mission使命

世界水準の子どもホスピス

1. 友としてかわかる
2. 病院でなく家である
3. 地域に根差した自発的な活動である
4. 財源を寄付に頼った慈善事業である

うみとそらのおうち

Vision展望

1. 子どもと家族に寄り添います
2. 子どもと家族に、自分から時間を提供します
3. 地域と共に歩み、開かれた施設を目指します
4. 小児科ケアに取り組みの発展的役割を全副に担いでいきます

30 利用した子どもの疾患の種類

- ① 根治療法が奏功することもあるが、うまくいかない場合もある病態 (小児がん、先天性心疾患など)  
小児がん11、心疾患4、骨形成不全1
- ② 早期の死は避けられないが、治療によって予後の延長が期待できる (神経筋疾患など) 神経疾患3
- ③ 進行性の病態で、治療はおおむね症状の緩和に限られる (代謝性疾患、染色体異常など) 遺伝子疾患1
- ④ 不可逆的な重度の障害を伴う非進行性の病態で、合併症によって死に至ることがある (重度脳性麻痺など)

併発50例、延べ利用60回

2022年7月8日時点

## 2021年度 第2回6月7日開催交流会 報告

### テーマ:「つながろう!仲間と。つなげよう!明日へ。 —集まろう、話そう、あんなこと、こんなことパート2」

参加人数:30名(ボランティア22名、コーディネーター・職員8名)と理事8名  
参加病院数:18

伊勢赤十字病院、慶應義塾大学病院、大阪警察病院、長崎大学病院、横浜労災病院、ほうせんか病院、マツダ(株)マツダ病院、市立伊丹病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、済生会川口総合病院、愛知医科大学病院、大阪府済生会中津病院、日野原記念ピースハウス病院、佐賀県医療センター好生館、関西労災病院、日本パプテスト病院、淀川キリスト教病院、札幌医科大学附属病院

#### プログラム

13:30開始

1回目のグループ(5、6人のいろんな方と)

全体共有

2回目のグループ(ボランティア同士、職員&コーディネーター同士で)

全体共有

みんなの質問タイム(困っていることなどを出し合う)

15:00終了

再開の目安・感染対策・活動状況(工夫していること、新しいことなど)を皆様と意見交換いたしました。

#### 参加した病院ボランティアの活動状況は

- ・ボランティアルームでのみ ・外来のみ ・活動目処が立っていない
- ・コロナ前とほぼ同じ ・6月中に再開を目指している ・花の水やりなど細々と活動

#### 1回目(ミックス)

・先生方の指示(コロナ対策)で安心して前に向かって外来での活動をしている。という話に、私たちは病院側から指示はいただいているが何をやるにも心配を横に活動していると

ころがあるが、話しを聞いて先が少しずつ明るくなると思った。

・病院幹部を交えたミーティングを持っていることで段階を経て活動再開に向けていい動き

おめでとうございます

(2022年5月～8月)

ペルランド総合病院 ボランティアグループ (ペル・フレンド)

ボランティア活動の推進に協力・貢献

創立70周年記念堺市社会福祉大会において堺市社会福祉協議会より感謝状

**ありがとうございました!**

筑波大学附属病院ボランティアの皆さまより  
「30年のあゆみ」が届きました。





## 編集後記

さしもの猛暑も過ぎ、庭の虫の鳴き声に秋を感じるこの頃です。

今年も新型コロナ感染で大きな打撃を受け続けた病院ボランティアでしたが来年はどんな一年になるのでしょうか。

「諸君、明日はもっと良いものをつくろう」ガウディが事故で亡くなる少し前に、仕事を終えた職人にかけてた言葉だそうです。

254号では交流会、研修会の報告を載せました。来年も皆様とのつながりを大切にと願っています。  
(編集委員 内片 藤田 宇野)

### 病院ボランティアだより

No.254 2022年10月発行

特定非営利活動法人 **日本病院ボランティア協会**

理事長 吉村 規男

〒542-0012 大阪市中央区谷町6丁目4-16商店街ビル202

TEL & Fax 06-6809-6506 <http://www.nhva.com>

E-mail [nhva@cronos.ocn.ne.jp](mailto:nhva@cronos.ocn.ne.jp)

印刷 畿関西共同印刷所